

資料と公共性 : 2022年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院

清原, 和之
島根大学学術研究院人文社会科学系 : 准教授

村野, 正景
京都文化博物館 : 学芸員

市沢, 哲
神戸大学大学院人文科学研究科教授 : 教授

他

<https://doi.org/10.15017/6770679>

出版情報 : 2023-03-10. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン :
権利関係 :

0. 「資料と公共性」共同研究の趣旨と 2022 年度の活動

0. はじめに

本報告書は、2018 年度（平成 30 年度）より、日本学術振興会科学研究費補助金の助成を受けて活動中の共同研究について、2022 年度の研究成果の一部をまとめるとともに、助成の全期間にわたる活動の総括として刊行するものである。本研究は、当初、2020 年度までの 3 カ年の助成の予定であったが、新型コロナウイルス感染症パンデミックのため、2020 年度以降、当初予定の活動が大きく制限されたため、2021 年度に続いて、2022 年度についても繰越申請を行い、これが認められたものである。ここでは、共同研究の趣旨と 2022 年度の活動を提示する。

1. 全体の趣旨

本共同研究は、国際化、情報化の急速な進展のなか、歴史資料を初めとする文化遺産を、「公共的」観点から公正かつ適正に管理と利活用するあり方について、理論的かつ実践的に研究することを目的とする。

国際化、情報化が進行する世界、社会において、歴史資料を文化遺産として利活用しようという動きが進んでいる。他方で、かつて国民国家が保証してきた公的な資料管理の基盤が、さまざまな点で揺らいでいる。いま、歴史資料、文化遺産を管理、保存、利活用する「主体」や「責任」について、従来とは異なる議論が必要である。

本研究の目的は、

1) 公共空間における文化遺産の利活用、管理、継承についての理論的、実践的基盤を再検討すること、

2) 文化遺産・情報資源の公共的な利活用、管理、保存を保証するための専門情報管理機関の再定義、実際にその業務を担う情報管理専門職のあり方、教育、学位制度、キャリア形成等の諸問題について、新しい視野から提言すること、である。

そこでは、激変する世界の動向に目を拓き、業界を越えた認識の共有を目指すこと、グローバルな情報化の動きに連動しながら、文化遺産、歴史資料管理の新しいステージを目指して、「公共空間」における専門知のあり方を再定義することも必要となる。「過去を遺し、今を伝える」公正な基盤作りに寄与することを目指すこの研究は、専門知のなかに充足する狭義の学問研究や、特定の社会的成果に奉仕する政策的研究とは異なり、教育と職場、情報の共有と責任などの関係に関わっている。

なお、本研究は、本来、2014年12月に九州大学で開催されたシンポジウムの準備に関わった研究者たちによって組織された「資料と公共性」と題する研究会の活動の一部である。発足から10年近くわたる「資料と公共性」研究会の活動履歴を、章末に掲げる。

2. 2022年度の活動と本報告書

2022年度は、関連する学界動向の調査、検討を進めるとともに、総括研究会を企画、開催する一方、関連する事業を支援した。

－1：共同研究総括研究会

日時：2022年8月27日（土）13時～17時

会場：九州大学西新プラザ中会議室

はじめに（岡崎敦）

清原 和之「資料情報管理における公共性と協働 ―専門職と専門知を再考する―」

村野 正景「ソーシャル・キャピタルと博物館 ―ウイズ・コロナ時代の社会貢献を目指して―」

市沢 哲「歴史資料、歴史研究と公共圏 ―プロジェクトを振りかえって―」

全体討論

－2：情報管理専門職についての検討会

日時：2022年8月28日（日）10時～12時30分

会場：九州大学西新プラザ中会議室

岡崎 敦「資料・情報管理専門職養成とキャリア形成 ―アーキビストを中心に―」

渡邊 由紀子「図書館領域における専門職養成の現状整理」

全体討論

本報告書では、以上の研究会での報告をもとに、本書のために新たに書きおこされた論考を掲載した。「総括研究会」の報告原稿は特集記事としてまとめた一方で、「情報管理専門職についての検討会」での報告原稿は、共同研究の総括として巻末に掲載している。研究会で提出された報告は、いずれも鋭利な問題関心と作業の精緻さの両面で、個別の業績としての価値を有するものである。他方で、個別報告をその生成のコンテクストの中で位置づけている本報告書は、共同研究活動の速報、ドキュメントという性格も有している。その成果と価値については、読者諸兄弟のご意見、ご批判を待ちたい。

他方、本報告書には、共同研究の趣旨に関連する事業、研究会について、関係者ご自身から論考をご寄稿いただくことができた。研究代表者と親しい関係にある著者たちは、い

ずれもきわめて若い世代に属するが、共同研究が展望した射程を、独自のやり方でさらに開拓してくれるものと信じている。

最後に、研究会活動および報告書作成という共同事業に、積極的にご関与いただいた方々に、研究代表者として、あらためて御礼申し上げます。

(岡崎 敦)

「資料と公共性」研究会活動履歴

1. シンポジウム「過去を伝える、今を遺す ―歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか―」

日時：2014年12月13日（土）13時～17時30分

場所：九州大学箱崎理系キャンパス 旧工学部本館大講義室

主催：九州史学会、公益財団法人・史学会

問題提起 岡崎 敦（九州大学）

報告

溝口 孝司（九州大学）「考古学の現在と未来 ―公共考古学の位置価値の視点から―」

清原 和之（九州大学）「アーカイブズ資料情報の共有と継承 ―Web2.0時代の情報管理と責任―」

吉永 暢夫（修猷館高校）「高校世界史と教科『情報』 ―クリティカル・シンキングから資料リテラシーへ―」

市沢 哲（神戸大学）「歴史資料をめぐる『よそ者』と『当事者』 ―専門家的知性と市民的知性―」

コメント

村野 正景（京都文化博物館）

古川 祐貴（対馬歴史民俗資料館）

史学会・九州史学会編『過去を伝える、今を遺す ―歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか―』山川出版社、2015年

岡崎 敦「はじめに」

第I部 文化遺産管理の現場で

古川 祐貴「対馬宗家文書の現近代 ―『宗家文庫』の伝来過程から―」

川西 裕也「歴史学とデジタル化 ―韓国の事例から―」

第II部 資料、市民、公共性

村野 正景「文化遺産の継承そして創造へ ―参加型考古学を試みる―」

清原 和之「アーカイブズ資料情報の共有と継承 ―集合記憶の管理を担うのは誰か―」

吉永 暢夫「高校世界史と教科『情報』 ―クリティカル・シンキングから歴史的思考力へ―」

第III部 資料を越えて

溝口 孝司「公共考古学の可能性」

中島 康比古「現代の記録を未来へ ―アーカイビングにかかわる責任の連続―」

市沢 哲「歴史資料をめぐる『よそ者』と『当事者』 ―専門家的知性と市民的知性―」

2. シンポジウム「資料と公共性 ―市民のための資料・情報管理とは―」

日時：2016年11月26日（土）14時～17時30分

場所：福岡大学中央図書館多目的ホール

主催：九州西洋史学会、九州歴史科学研究会

報告

岡崎 敦（九州大学）「資料と公共性 ―問題の所在と『私的資料』をめぐる試論―」

清原 和之（学習院大学）「現代公文書管理と公共性」

山田 雄三（福岡大学）「福大プロジェクト ―荒尾市や別府市と提携しながら、『記憶』や『自分たちの歴史』の発掘を手がける―」

市沢 哲（神戸大学）「資料管理から公共歴史学を考える」

『九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻年報』2016/2017、13-18頁

<https://doi.org/10.15017/1801085>

3. シンポジウム「情報管理専門職をめぐる民間企業と大学・学界」

日時：2017年11月17日（土）14時～17時

場所：九州大学中央図書館4階視聴覚ホール

主催：日本アーカイブズ学会・九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

共催：九州大学附属図書館

趣旨説明

清原 和之（日本アーカイブズ学会研究部会委員）

報告

三谷 直也（株式会社 日立ドキュメントソリューションズ）「『企画』『開発』『運用』が三位一体となったプロジェクトマネジメント支援 ―記録情報管

理の視点から—」

高津 隆（帝国データバンク史料館）「企業の記録と資料を守るために —出番を待つアーカイブズ専門家—」

岡崎 敦（九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻）「21世紀の情報管理専門職の養成について」

『九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻年報』
2017/2018、3-12 頁

<http://lss.ifs.kyushu-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018/04/3400a944222e2d3c863c7a4c491ae8aa-2.pdf/wp/wp-content/uploads/2018/04/3400a944222e2d3c863c7a4c491ae8aa-2.pdf>

4. 科研キックオフ研究会（以下のイベントは、『科研年度報告書』に掲載）

日時：2018年9月1日（土）13時30分～

会場：九州大学箱崎文系キャンパス 文学部会議室

報告

岡崎 敦「資料と公共性 —なにが問題か—」

市沢 哲「公共のなかの人文科学／公共性をつくりだす人文科学」

石田 栄美「オープンデータの現代的動向」

後小路 雅弘「コメント —アートの世界から—」

5. シンポジウム「オープンデータと大学」

日時：2019年1月30日（水）13時30分～17時

会場：九州大学 伊都キャンパス 中央図書館4階きゅうと commons

主催：九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

共催：九州大学附属図書館、九州大学大学文書館、九州大学大学院人文科学研究院

後援：九州地区大学図書館協議会；日本学術振興会科学研究費「デジタルヒューマニティーズを促進するオープンデータ環境およびシステム基盤の構築」（代表・石田栄美）；同「国際化、情報化環境における歴史資料の公共的利活用と管理に関する基礎的研究」（代表・岡崎 敦）

岡崎 敦（九州大学）「趣旨説明」

報告

中村 覚（東京大学情報基盤センター）「東京大学デジタルアーカイブズ構築事業におけるオープンデータに関する取り組み」

南山 泰之（東京財団政策研究所）「研究データ管理の動向及びデータ利活用に向けた課題整理」

畑埜 晃平（九州大学）「くずし字のオープンデータとその活用」

パネルディスカッション

『報告書』でのコメント：清原和之

6. 研究会「学校資料」

日時：2019年2月10日（日）

会場：九州大学大学文書館

報告

和崎 光太郎／村野 正景「学校資料について」

「九州大学大学文書館見学」

『報告書』でのコメント：岡崎 敦

『18年度報告書』個別論考

中島 康比古「資料と公共性、それを支えるコトとヒト」

清原 和之「アーカイブズ学と公共歴史学に関する研究動向 —『アーカイブ』とその『活用』を問い直す—」

7. シンポジウム「公共歴史学、公共考古学の射程 —歴史実践と資料—」

日程：2019年4月13日（土）13時～17時30分

会場：九州大学西新プラザ 大会議室 A

趣旨説明

岡崎 敦（九州大学）

報告

藤川 隆男（大阪大学）「21世紀の歴史学とパブリック —IMBY/【インターネット

ト・アニメ・モノ・アート・デジタル】・ヒストリー—」

村野 正景（京都文化博物館）「中米のパブリック考古学と博物館学の動向」
『報告書』でのコメント：市沢 哲

8. 「パブリックアーケオロジの射程：背景、成立、現状」

日時：2019年11月2日（土）13時～17時30分

会場：九州大学西新プラザ 多目的室

プログラム

村野 正景「趣旨説明」

松田 陽「パブリックアーケオロジの成立と展開」

岡村 勝行「欧州現代考古学の近年の動向」

『報告書』でのコメント：中島 康比古

9. オリヴィエ・ポンセ教授 アーカイブズ学講演会

日時：2019年12月7日（土）15時～17時30分

会場：学習院大学 中央棟 301（JR 山手線目白駅下車3分）

主催：学習院大学大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学専攻

共催：学習院大学文学会

後援：内閣府、独立行政法人国立公文書館、日本アーカイブズ学会

講演 オリヴィエ・ポンセ教授（フランス国立文書学校） 演題

「フランスにおけるアーキビスト養成（過去、現在、未来） —学問的、社会のおよ
び政治的課題—」 Former des archivistes en France, hier, aujourd'hui, demain : un enjeu
scientifique, social et politique

『報告書』掲載の関連論考

清原 和之「イギリスにおける情報管理専門職（アーキビスト／レコード・マネージャー）の現代的変容」

岡崎 敦「フランス共和国におけるアーカイブズおよびアーキビスト養成制度」

『報告書』掲載の個別論考

村野 正景「『学校所在資料』という概念の意義 —資料のステークホルダーの把握
に向けた概念準備—」

10. シンポジウム「遠隔から考え直す歴史教育実践」

日程：2021年4月17日（土）13時～17時

オンライン開催

九州西洋史学会主催、九州歴史科学研究会共催、高大連携歴史教育研究会後援

岡崎敦「趣旨説明」

報告

池上 大祐「オンデマンド型講義による歴史教育実践 ―能動的な学びをどう確保するか―」

今井 宏昌「遠隔がつなぐ高大連携 ―コロナ禍におけるグローバルな歴史実践をめざして―」

多川 孝央「『遠隔』から考え直す学習とコミュニケーション」

総合討論

11. 「公共歴史学」研究会

日時：2021年7月24日（土）13時30分～17時

会場：九州大学伊都キャンパスイーストゾーン C-203 会議室およびオンライン

報告：剣持 久木（静岡県立大学）「公共史の射程 ―書物、映像、博物館をめぐって―」

『報告書』掲載の関連論考

平田 哲也「剣持報告へのコメント ―学生の視点から公共史を考える―」

青山 詩乃「パブリック・ヒストリーとは何か」

12. シンポジウム「情報管理組織のミッションと専門職養成」

日程：2021年11月27日（土）13時30分～17時

会場：九州大学中央図書館4階きゅうとコモンズ およびオンライン開催

主催：九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、九州西洋史学会

共催：九州大学附属図書館、九州大学文書館、九州歴史科学研究会

趣旨説明 岡崎 敦（九州大学大学院人文科学研究院）

報告

大沼 太兵衛 (国立国会図書館) 「デジタル時代に求められる司書の専門性とは」

平野 泉 (立教大学共生社会研究センター) 「アーキビストは資料・情報管理の専門職
なのか」

渡邊 由紀子 (九州大学附属図書館) 「大学図書館のミッションと人材養成の課題 —
現場からのコメント—」

パネルディスカッション

『報告書』掲載のコメント：清原 和之

1 3. 「総括研究会」および「情報管理専門職についての検討会」

日程：2022年8月27日（土）、28日（日）

会場：九州大学西新プラザ中会議室

「総括研究会」8月27日（土）13時～17時

はじめに（岡崎）

清原 和之 「資料情報管理における公共性と協働 —専門職と専門知を再考する—」

村野 正景 「ソーシャル・キャピタルと博物館 —ウイズ・コロナ時代の社会貢献を
目指して—」

市沢 哲 「歴史資料、歴史研究と公共圏 —プロジェクトを振りかえって—」

全体討論

「情報管理専門職についての検討会」8月28日（日）10時～12時30分

岡崎 敦 「資料・情報管理専門職養成とキャリア形成 —アーキビストを中心に—」

渡邊 由紀子 「図書館領域における専門職養成の現状整理」

全体討論